

訓練コースを再編 企業ニーズに対応するために

職業能力開発
の
現場から



神奈川障害者職業能力開発校

創立●1949年10月。神奈川身体障害者公共職業補導所として設置
所●神奈川県相模原市南区桜台13-1
事業●職業能力開発促進法に基づき、障害のある方を対象に、「職業人として自立」できるよう職業に必要な能力開発を行う。延べ定員150人。
訓練コース●機械系（機械エンジニア／2年、機械CAD／1年）、電子・情報系（ITエキスパート／2年、ITサポート／1年）、印刷系（グラフィックデザイン／1年）、オフィスビジネス系（ビジネスサポート／1年、ビジネスキャリア／1年）、実務作業系（総合実務1年）、オフィスビジネス系（ビジネス実務／6ヶ月）

○さらに充実した訓練を目指して

神奈川障害者職業能力開発校は国が設置して、神奈川県が運営する職業訓練校。産業構造の変化や技術革新が進む中で、同校は企業が必要とする人材に応えるため、従来の訓練内容の改善を図り、今年度から新たなスタートをきった。

杉江嘉美副校長は、「何年も前からいろいろと課題を整理しながら訓練内容を見直してきました。プロジェクトチームを作つて、企業サイドから近年求められている「トト分野のエキスパートの育成や、知的障害者、精神障害者の一般事務職への就労支援など、訓練コースの再編や充実を図りました」と話す。

○訓練内容

「訓練」コースは全部で9つあるが、その一部を指導員の方にご紹介いただいた。「身体障害者対象の電子・情報系のコースは主にプログラム開発を行っています。訓練生には日商P.C検定のワープロと、表計算の3級が取れるよう指導致っています。訓練生のほとんどは関連業種に就職しています。授業で目指すのは品質管理・保証、技術サポートなどができるようになることです」（佐久間理一指導員）

「機械系も身体障害者が対象ですが、機械エンジニアのコースは若年者向けで、初めて社会に出る人が対象。機械CADコースは社会経験がある人が対象で、新たなスキルを身につけてもらいます。両コースとも機械の保守や点検まで学び、もの作りの一連の流れを習得します」（井上秀夫指導員）

「他のコースは18～60歳位と年齢のが対象。

○就職に向けて

「他のコースは18～60歳位と年齢のが対象。毎年秋に開催されるハローワーク主



催の企業の合同面接会に参加するほか、企業の方に学校に来てもらう校内求人説明会を開催している。校内の求人説明会は、これから本格的に実施したいと木下課長は話す。 「例えば、企業セミナーは参加企業が多いというメリットはあるのですが、雑然とした雰囲気に不慣れな訓練生もいます。企業の方に学校に来ていただければ、企業もしっかりと説明ができて、訓練生も通り慣れたところで落ち着いて面接ができる」

また、応援団というか、本校の活動にご支援いただいている企業が会員となって、神奈川職業自立能力開発推進協議会が1988年に設立されました。その会員企業の方に、就職に向けたガイダンスの講師などをやっていただきたり、あるいは求人説明会にご参加いただいたりして就職を目指します」

就職率はリーマンショックの時に5割位に落ち込んだが、校内に就職対策委員会などを立ち上げて、現在は7、8割までも直している。

「卒業後の定着指導にも力を入れます」

就職率はリーマンショックの時に5割位に落ち込んだが、校内に就職対策委員会などを立ち上げて、現在は7、8割までも直している。

同校は在学中の訓練生へはもちろんのこと、就職後の職場定着指導にも積極的に取り組んでいます。いつでも訓練生への助言や相談を受けるなどの環境を整えている。

「卒業後3年程度は、卒業生に声をかけて学校に集まつてもらい、情報交換の場を作っています。そういう場があると、卒業生は指導員に、こういうことで悩んでいるといった話もできます。また、就職先の企業の方から卒業生の就業状況などをお聞きして、本人にアドバイスもしています」（杉江副校長）